

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2017年11月26日（日）

主 題：「本当に、自由に解放される生き方」

一死を乗り越える信仰一

テキスト：ヘブル人への手紙11章17-22節

### はじめに

- ・先日（11月9日）、ある方が夜遅く自転車に乗って帰宅しようとしていました。何かのはずみで自転車が転び、彼は首の骨を折りました。頭部も打ったようで、すぐ緊急病院に運ばれ集中治療室へ入りました。しかし、出血はなかなか止まりませんでした。
- ・その知らせを受けた私たちは神様に、彼が回復するようにお祈りしました。（教会の祈祷委員、執事会の方々にもお祈りをお願いしました。）しかしその三日後、彼は召されてしまいました。その方は私の知っている方で、よくお話ししたこともあり、とても気さくな方でした。本当に心を痛めました。人の命の「はかなさ」を痛く感じました。
- ・皆さん！ この世に生きている人は、だれでも皆、「死」を迎えます。それは100%の確率できます。人間は皆、死によって限定されていると言ってもいいでしょう。ですから、死の問題が解決されていないならば、いつも死におびやかされ、「死」んでしまえば全てはおしまいだ、という思いに捕らわれます。そこには本当の自由はありません。 苦しいのです。
- ・神が私たちをお造りくださったならば、人間がそのような刹那的な思いで生きるようにされたのでしょうか？ いいえ、神は私たちがそのような思いで生きるのではなく、自由で、解放された生涯を送ることを望んでおられます。
- ・ですから、私たちは死の問題を解決して置くことは、極めて重要です。死んでからでは、もう遅いからです。しかし、生きている今、私たちはどのように死の問題を解決できるのでしょうか。今日の聖書箇所に出てくる人々は、死の問題について解決し、死のかなたにある世界への希望を持っていたことを教えています。
- ・皆さん！ 信仰が本物であるかどうかは、試された時に初めて分かります。すでに前回学んだように、ヘブル人への手紙11章は「信仰によって」というフレーズが中心になっています。これまでに、何度も触れてきましたよう

に、この書簡が書かれた当時の社会で、キリスト信仰を維持することは、容易ではありませんでした。

- ・彼らは信仰のゆえに、世的には多くの不利益が生じました。そのため信仰を捨てた人も少なくありませんでした。ですから著者は、クリスチャンたちがキリスト信仰を捨てることがないように、旧約聖書時代の信仰の先人たちを登場させ、聖徒たちを励ましているのです。
- ・私たちはそのような信仰の先人から、次の2点を学びたいと思います。

## 大切なポイント

### 1 先人たちの信仰による生き方

#### 1) 信仰の父アブラハムの最大の試練

- ・アブラハムの人生最大の試練は、神のご命令によって、最愛の子イサクを、完全に焼き尽くす「いけにえ」として捧げることでした。皆さん。ここで彼の立場になって考えてください。
- ・神はアブラハムにイサクを与え、彼の子孫が偉大な民になると言われました。しかし神は彼に、息子を殺して捧げなさいと命じられました。これは矛盾ではありませんか。以前の神の約束は、どうなってしまったのでしょうか・・・。
- ・神は人の命の大切なことを言われ、次のように言われました。創世記9章9：6 人の血を流す者は、人によって、血を流される。  
それにもかかわらず、神はイサクを完全に焼き尽くす「いけにえ」として捧げるよう言われました。(創世記22章をお読みください) **ヘブル人への手紙**  
11：17 信仰によって、アブラハムは試みられた時イサクをささげました。  
彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです
- ・アブラハムは、血も涙もある人の子でした。どうして悩み苦しむことなく、そのようなことができたのでしょうか。しかし、聖書は彼の苦しみや悩みの心理描写はしていません。なぜでしょうか・・・？ →それは彼にそういうことがなかったからではありません。聖書はそういう観点からではなく、神の視点から描写しているからです。それが、11章17節という言い方に表されているのです。
- ・自分の子を殺すのに喜んでそれをする人が、どこにいるのでしょうか。  
アブラハムは多くの矛盾に悩まされながらも、神の言われることには矛盾はないと信じたのでした。神がどういうお方か、アブラハムは知っていました。ですから、神が言われたことに喜んで従うことができたのです。
- ・創世記22章

22:5 それでアブラハムは若い者たちに「あなたがたは、ロバと一緒に、ここに残っていなさい。私と子どもとはあそこに行き、礼拝をして、あなたがたのところに戻ってくる」と言った。

- ・彼は、私と息子はあの場所へ行って、「神を礼拝し、あなたがたのところに戻って来る。」と言いました。しかし、あの場所へ行って、イサクを完全に焼き尽くす「いけにへ」として捧げてしまったら、帰って来るのは一人だけではないでしょうか。そうです。アブラハムは確かに神のみ言葉通りにイサクを殺し、「いけにへと」して捧げるつもりでした。しかしまた同時に、二人で帰って来ることも信じていました。その間の事情を説明するのが、19節です。

11:19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。

- ・矛盾するように思われる二つの神のみ言葉が、神の奇跡のみわざによって解決されるという信仰です。つまり、神に矛盾はないのです。アブラハムの神への信仰が、どんなに大きなものであるかが、よく表されています。それが信仰です。

## 2) 約束の子イサクの最大の試練

- ・次に取り上げられているのはイサクです。イサクは、アブラハムから「いけにえ」として捧げるのはお前である、と言われた時、それを受け入れました。それは信仰によるものでした。
- ・少し考えてください。イサクの場合、アブラハム以上に自分の命の関わることでしたから、大きな信仰が必要であったはずですが、そのことについては、何も記されてはいません。彼は自分の死後に起こることを、信仰によって見通して、ヤコブとエソウを祝福したと記しています。
- ・11:20 信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤコブとエソウを祝福しました。

これは彼の余命がそれほど残っていないころのことで、死に直面している時であったと言えましょう。そういう時、人は自分の死以外は考えられないものです。それなのに彼は、将来のことについて見通していました。死を超えて、神の祝福を見ているわけです。

- ・11:21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました。  
約束の地カナンがききんのため、ヤコブとその一族はエジプトへ行きました。

そこで神の摂理によって、先にエジプトへ行っていたヤコブの子ヨセフは宰相（国務大臣）となっており、その一族がヨセフの世話になりました。

- ・しかし、彼も年老いてきました。彼は子どもたち一人一人のために祝福を祈りました。「**自分の杖のかしらに寄りかかり礼拝した**」とは、原文ヘブル語では「床に寝たまま、感謝を表した」です。七十人訳聖書 (Septuaginta) は、創世記 47 : 31 の「床」（寝台）を「杖」と誤訳したと言われています。
- ・自分の死が近づいているのに、自分のことを嘆くのではなく、子どもたちや孫たちのことを思い、祝福しました。その姿は、人生は死で終わりではなく、神の祝福の約束は子々子孫にまで、続いていくことを信じていたからでした。

### 3) ヤコブの子ヨセフの信仰

- ・11:22 **信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました。**

ヨセフは、エジプトへ一人の奴隷として売られました。しかしそこで試練の後、立身出世し宰相（国務大臣）にまでなりました。しかし自分のいるエジプトは寄留地であることを知っていました。神の約束の地に帰ることを願っていました。彼は約束の地に帰ることを見通していました。その時には、自分の骨を約束の地へ持って行くよう指図しました。

- ・ここまで、私たちは信仰の先人であるアブラハム、イサク、ヤコブ、そしてヨセフの人生を考えてきました。私たちは彼らの内に、何を見ることができのでしょうか。 → 「死」を乗り越える信仰」です。

## 2 先人たちの「死」を乗り越える信仰

### 1) 矛盾のない神

これら三人（アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ）に共通している点は、彼らは「死」を恐れなかったことです。アブラハムは自分が死ぬことだけでなく、最愛の子イサクを殺すこともいといませんでした。それは彼が勇敢な人に出会ったからではありません。死に打ち勝つ力を持っておられる神を信じていたからでした。

- ・神の御心ならば、たとえ死んでも生き返ることができます。やがて、キリストにあつて、朽ちることのない体に復活し、永遠に主と共に生きることができるからです。
- ・神は、アブラハムがイサクを殺すことをよしとされませんでした。

私たちの罪の贖いはイエス・キリストだけで十分であったからでした。そのような神が、一見矛盾しているように思われることを言われても、神は決して矛盾するはずがないと、私たちは信じることができるのです。

- ・ 著者は次のように言いました。

**11:19** 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。

- ・ 「これは型です。」とは、イエス・キリストの身代わりの型のことです。

## 2) 「死」を乗り越える信仰

- ・ 共通している点は、イサク、ヤコブ、ヨセフは自分の「死」だけを見つめてはいなかったことでした。それだけを見つめている人は、死の恐れの前に手も足も出ません。ただ死を恐れるだけです。彼らは神の約束を絶えず覚えて、死の直前にもそのことを覚えて、子どもたち、子孫を祝福しました。

- ・ そこに彼らの死を乗り越えた信仰を見ることができます。死に縛られた人生には自由がありません。それから解放される時、死からの真の自由が与えられます。

- ・ では、私たちはどうすればよいのでしょうか。

死の問題の解決は、信仰の先人たちが持っていた信仰を持つことです。彼らは神の言葉を信じました。決して彼らが勇敢で強かったからではありませんでした。いいえ、彼らも私たちと同じように、肉の弱さをいっぱい持っていました。しかし、神のみ言葉を信じました ⇒ 「信仰によって」です。

- ・ 今は、イエス・キリストはすでに来られ、死の問題の解決をされた時代です。イスラエルの父祖たちは、キリストの十字架の死を前に置いて、神のみ言葉を信じ受け入れました。

- ・ 聖書は、イエス・キリストの受肉の理由を次のように語ります。

### ヘブル人への手紙

**2:14** そこで、子たちはみな血と肉を持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、

**2:15** 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となった人々を解放してくださるためでした。

- ・ ここに何者にも支配されない、本当の自由な生き方、解放された生き方があります。
- ・ では、どうすれば、そのような生き方ができるのでしょうか？

⇒ 生ける神を信頼することです。

どんな状況に置かれても、神を信頼することです。ブレがない信仰を持つには、普段の小さな（些細な）出来事においても、主である神を信頼することです。信仰とは小さな経験の積み重ねです。小さな経験を積んでいく人には、神のみ言葉への信頼があります。み言葉への信頼こそ、「本当に、自由に解放される生き方」をする人です。

### ま と め

主 題：「本当に、自由に解放される生き方」

ー死を乗り越える信仰ー

- ・ 私たちは今日、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフの人生から「死」に支配されない、幸いな生き方を学びました。つまり、死を乗り越える勝利の人生を送る秘訣を学びました。
- ・ では、信仰の先人たちから、何を学ぶことができたでしょうか。
  - ⇒ 神のみ言葉を信じること（重要）
  - 1 み言葉は矛盾しているようで矛盾してはいない
  - 2 死を乗り越える生き方は、み言葉を信じる信仰にある

\* God bless you !